

Ecola

イ・コ・ラ

No. 23

発行 2016年6月5日

こんにちは、皆さんお変わりありませんか？日々の雑事に追われ、あっという間に時は過ぎ、1年ぶりのイコラとなってしまいました。

2016年に入り、国民的男性アイドルグループの解散危機報道、結婚卒論話などいろいろ芸能ニュースがTVを賑わせていたと思ったら、突然熊本で大地震が起こりました。ネットのニュースでは、発達障害のある方が配給の列に並べないために食料を貰えない、避難所に行けず家族で車中での生活を余儀なくされているといった苦勞されているお話が耳に入ってきます。私達も今一度、もし和歌山で大地震が起こったら、とリアルな事として考え、きちんと備えが出来ているか見直す必要があると感じました。

熊本大地震で被災された方、中でも環境の変化に弱く、忘れるのが苦手な自閉症の方々が少しでも落ち着いた生活を早く取り戻せるように心から祈り、応援したいと思います。

～PRAY for KUMAMOTO～

和歌山城ブルーライトアップイベント

平成28年4月2日(土)の「世界自閉症啓発デー」に、和歌山城ブルーライトアップイベントが開催されました。尾花和歌山市長が挨拶をされ、古川市議会議員、坂下障害者支援課長、和歌山市職員の皆様と自閉症啓発チラシを配



りました。

日が暮れたころには和歌山城が美しいブルーに染まっていました。

和歌山県で初めてのブルーライトアップ！感慨深いものがありました。



自閉症啓発チラシ配布中

療育セミナー

平成 28 年 1 月 16 日 (土)

中央コミュニティセンター 多目的ホール小

講演 「知的障がい・自閉症のある人の親なきあとのライフプラン」
～親が元気な間にやっておける手続きと金銭管理～

ファイナンシャル・プランナー 鹿野 佐代子氏

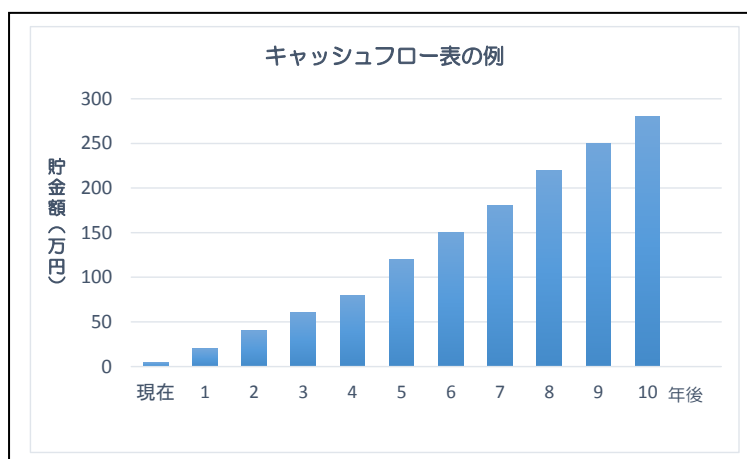


親亡き後の対策で大切なこととして、障害のある子のライフプランをつかむためにキャッシュフロー表を作成すること、きょうだいの関係を公平に考えることを挙げられていました。

特に障害のある人の場合、将来にお金を残しすぎると使い切れない可能性があるのので、元気なときの余暇活動や生きる力を伸ばすためにお金を使うことに重点をおく考え方を提案されていました。

また、子どもの自立のためには、親亡き後の生活を意識し、見守る姿勢で接してあげること、自分で決定できるように経験を積ませること（時には失敗させる経験も！）が必要だということでした。

さらに、遺言書、日記、手紙、音声、DVD、エンディングノート、生命保険などの具体的な形で親の遺志を残しておくことが大切だと話されていました。



母親クッキング

お子さんが成人されているお母さん方のお楽しみ“母親クッキング”♪年間 4 回開催されています。いつもすごいメニューですね！

- 第 1 回 平成 27 年 4 月 22 日(水) 参加者…20 名
メニュー：いなり寿司、エビとたけのこのフライ、にゅうめん、カップケーキ
- 第 2 回 平成 27 年 6 月 24 日(水) 参加者…18 名
メニュー：しょうがご飯、チキンソテー、ポテトサラダ、ナスの和え物、そうめん、りんごのケーキ
- 第 3 回 平成 27 年 10 月 14 日(水) 参加者…18 名
メニュー：ちらし寿司、天ぷら、小松菜と揚げの煮物、にゅうめん、ケーキ、柿
- 第 4 回 平成 28 年 1 月 27 日(水) 参加者…14 名
メニュー：エビのかき揚げ、鶏の唐揚げ、ほうれん草のごま和え、茶碗蒸し、大根なます、ケーキ

食事会

平成 27 年 7 月 13 日 (月) かごの屋 にて 参加者 11 名

例年なら茶話会をするところ、久しぶりにランチ会を開催しました。

お食事のメニューは、“女子会プランオシャベリーゼ”の中の『花かご弁当コース』をいただきました。お造り、炊き合わせ、焼き物、揚げ物、小鍋、七福神茶碗蒸しご飯、デザート3種、そしてソフトドリンクは飲み放題と、おしゃべりが弾むメニューでした。



話題は、子どもやご主人の話、バスツアーの行き先などの話や、体調の話など様々でした。母親クッキングに参加者されている方からは「これ（かぼちゃの入った春巻き）、次のクッキングで作ってみえへん?!」なんて声も聞こえていました。お店に入る時には降っていた雨も、帰る頃には上がっていました。みんなの気持ちも、たくさんおしゃべりをして、晴れ晴れしていたのではないのでしょうか。

就学期お母さんの交流会

平成 27 年 6 月 30 日 (火) 参加者 8 名 (一般参加 0 名)
 10 月 27 日 (火) 参加者 8 名 (うち一般 2 名)
 12 月 14 日 (月) 参加者 7 名 (会員限定)
 平成 28 年 3 月 15 日 (火) 参加者 12 名 (うち一般 7 名)

以前は、学期に1度ずつ会員限定または一般(会員外)参加可能の形で開催していましたが、

年齢期の会員さんが少なくなってきたこともあり、27年度は会員限定の開催を1回だけにしました。(6月は一般参加がなかったの
 で、会員限定となってしまいましたが…)一般(会員外)の方は、愛徳に貼っているチラシを見たり、以前参加された人に誘われたりがきっかけで参加してくれています。地域の幼稚園・保育所や小学校に通わ



れている方が多く、和歌山市との対話集会で繋がってくるような、教育に関するの悩みや不満の声が聞かれます。何度か参加してくれる方もいるので、もっと協会の良さを発信していけたらと思います。

12月の会員限定の交流会は、A型作業所のチョコレートショップ『toco*towa』さんのティールーム(和歌山市塩屋)で開催しました。

オープンキッチンでの作業の様子を見ながら、おいしいお菓子とお茶をいただき、日々の困った事などを“笑顔”で話しました。結構深刻な話題も気の知れた仲間だからでしょうか、笑い話の様に語ってしまいます。

クリスマスシーズンで可愛いパッケージのお菓子もあり、家族にもスイーツのお土産を買って帰りました♪♪



伊丹空港&インスタントラーメン発明記念館バスツアー

平成 27 年 6 月 7 日(日)

参加者 46 名

8:30 に浜の宮を出発して、JR 和歌山駅東口、岸和田 SA と車中、皆さん情報交換したり、歓談したりと和やかな雰囲気である間に伊丹空港に到着。空港では自由行動となり、展望デッキで飛行機を見て旅行気分を味わったり、専門店では有名ブランドのお菓子を土産に買ったり、レストランでランチしたりと皆さん楽しんでいらっしゃいました。



その次はインスタントラーメン発明記念館に。バスを降りてからは徒歩での移動。着いてからマイカップヌードルファクトリーで、カップに絵や文字を書き、スープやトッピングを選んでオリジナルカップヌードルを作りました。ファクトリーではアジア系の方々もたくさんいらっしゃって何だか外国にいるみたいでした(^-^)その後は館内のミュージアムショップや展示を観たりと自由に楽しんで帰途に着きました。雨にも合わず楽しい 1 日でした。



参加された奥野さん(父)の感想です

6 月 7 日に行われたバスツアーに参加してきました。多数参加して晴天にも恵まれて楽しいひと時でした。

はじめに伊丹空港を見学しました。小学校の修学旅行の時、寄り道したのを思い出しました(笑)空港内で昼食をとりましたが、さんざん悩んだ挙句、安定の「551 の蓬莱」。

つづいて向かったのが、「インスタントラーメン発明記念館」。ここでは各々が、オリジナルのカップヌードルを作って楽しんでいましたが、絵心が無いとつらい(笑)子供たちは無心に描いてましたね～！迷いがありませんよね、大人と違って(笑)

今回参加できなかった方も、次回は参加出来たらいいですね。



夏休み親子クッキング

平成 27 年 8 月 18 日(火)

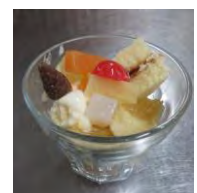
参加者 8 名(4 家族)



中央コミュニティセンター調理室で、発酵いらずのピザとパフェ風アイスを作りました。

ふっくらもちもちの美味しいピザができました。

参加人数は少なかったのですが、ゆったりした雰囲気、子どもたちとクッキングができました。



バーベキュー&レクリエーション

平成 27 年 11 月 3 日 (火・祝)

参加者 26 名 (10 家族)



貼り出し、少しゆっくりハイキングを楽しむ時間をとりました。ハイキングコースを歩いていると、小道の脇にイノシシ用のワナを発見!

11 月に入り急に寒くなり天候も心配していましたが、さすが晴れの特異日! 今回も見事に晴れました。

まずは、恒例の少年自然の家のスタッフさんからの挨拶と注意事項の説明です。毎年、「蜂が出るので、注意して下さい。」と聞きますが、それに加えて「イノシシが出没するかもしれないので、注意して下さい!!」と言われ、みんな驚きました。

今回はタイムスケジュールを作って
今回はタイムスケジュールを作って
貼り出し、少しゆっくりハイキングを楽しむ時間をとりました。ハイキングコースを歩いていると、小道の脇にイノシシ用のワナを発見! 「本
当にいてるんや~!!」と、ぞっとしま
した。



学齢期の子どもの参加は少なかった
ですが、大きいお兄さんや保護者も童心
に戻り、アスレチックではおもいきり遊び、
汗ばむほどでした。イノシシとは遭遇しな
いで無事下山すると、お腹もペコペコで出来た
ての焼きそばとお肉、持参したおにぎりをい

いただきました。大きく切った苦手な野菜も、こんな時には不思議とパクッと食べれちゃうんですね。



参加された山本さん (父) の感想です

初めて参加させていただきました。

現在9歳の息子は特別支援学校に通っており、いろいろな障がいを持った子どもたちがいますが、「自閉症」という枠組みの集まりには今まで参加したことがなかったのでとても有意義でした。

息子はメンバーの中では年少のほうですが、年上の方々と触れ合うことが出来てよかったです。

今年度もバーベキューだけでなく、行政との対話集会・その他行事にも積極的に参加させていただきたいと思っています。皆さま、どうぞよろしくお願いいたします。

(追伸) お肉と焼きそば、とてもおいしかったです。ありがとうございました。食べる前に「お肉は1人あたり9切れまで~!」という注意がありましたが、実際はそれよりもかなり多くいただくことができました(笑)

そして、前回あるお母さんから提案していただいた焼き芋を作り、コーヒーや紅茶といただきながら、ビンゴ大会をしました。濡らした新聞紙とアルミホイルで包んで焼いた焼き芋は、想像以上に美味しくて、大好評でした。

以前から、早々におひらきになってしまうので、食後の過ごし方が課題だと感じていて、今回、試験的にビンゴをしましたが、アウトドアでビンゴというのも少し違う気がします。…が、役員会の中では名案が思いつかず困っています。何かいい案があれば、是非教えて下さ~い!!

ちなみに、今年度・来年度の2年間は、少年自然の家が改築工事のため使用ができないので、只今代替行事を考え中です。何かいい案がありましたら、事務局までご連絡下さい!!

ボウリング大会

平成 28 年 2 月 14 日 (日)
和歌山グランドボウル
参加者 25 名 (内プレイヤー 18 名)

今回、他の団体の行事と重なったため、例年よりも参加者が少なくなりました。そのせいか、集合時間の 10 分前には集まれている、投球の練習が終わり、10 時ちょうどにプレイを始める事ができました。みんな何度も参加しているからか、順番もしっかり守れ、レーンのファール線を踏んでしまう事も少なかったようです。

毎年一番寒いこの季節に開催していますが、この日最高気温が 20℃と暖かく、2 ゲームが終わる頃には暑く感じる程でした。例年通り、ゲームの終わった人から景品を受け取り帰りましたが、みんな同じぐらいに終わったので、表彰式などで締めてもよかったかもしれませぬ。



森岡大輔くんの感想です



2月14日日曜日ボウリング大会にお父さんと参加しました。

はじめに7ポンドのボウルを選びました。次に、練習をしました。練習ではスペアができました。

本番ではスペアはでなかったけどがんばりました。途中、ボウルをみがいたり、お父さんを応援しました。お父さんはストライクをいっぱい出しました。

来年も参加してばくもストライクを出したいです。

岡先生のワンポイントアドバイス②

「自閉症者への合理的配慮とは」

きのかわ支援学校 岡 潔

今年の4月1日から「障害者差別解消法」が施行されました。この法律は、障害を理由とする差別の解消を推進することにより、すべての国民が障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現を目指していくことを目的としています。

この法律で重要なのは読んで字のごとく、「**障害を理由とする差別**」を禁止することを明言しているところにあります。これまでに自閉症者が障害を理由として不当な差別的取扱いを受けたことはなかったでしょうか。記憶の新しいところでは、昨年3月に東京で献血を拒否された問題がありましたよね。このように障害を理由として、サービスの提供や入店を拒否されることがあってはなりません。これは国の行政機関や地方公共団体等はもちろんのこと**民間事業者**に至るまでが対象となります。

そして、この法律のもう一つ注目する点が、「**障害者への合理的配慮の提供**」を行うことを明言したところにあります。合理的配慮の例としては、車いすの方が乗り物に乗る時に手助けをすることや、窓口で障害のある方の障害特性に応じたコミュニケーション手段（筆談、読み上げなど）で対応することなどが挙げられます。こうした個々の方へのちょっとした配慮で助かることってたくさんありますよね。こちらの方は、国の行政機関や地方公共団体等は法的義務を負うこととなりますが、民間事業者においては努力義務となります。

それでは、見た目では解りにくい障害である自閉症者への合理的配慮とはどのようなものなのかを考えてみたいと思います。合理的配慮とは人権を保障するための配慮や調整を意味します。

「平等」と「公正」の大きな違いが1秒で納得できる画像として多くの人にシェアされているのがこの図です。合理的配慮をとらえるのにたいへん参考になりますね。Equalityが「平等」、Justiceが「公正」を表しています。



「平等 Equality」と「公正 Justice」

自閉症と言っても障害の程度は人それぞれ違います。ゆえに配慮する内容も人それぞれ違うものになって当然です。でも実際に、「平等」という言葉を間違えて捉えている人も多いように思われます。自閉症の方に一律同じスケジュールを提示している、自閉症児には衝立が必要

と捉えている、伝える手段は様々あるのにカードやサインをひたすら練習している、等々。無いよりはと言われがちなのですが、決して適切であるとは言えませんよね。

いつの時代になっても、自閉症の特性を踏ま

えて個々への配慮を考えていくことはたいへん重要なことです。5年前に神奈川県自閉症協会は、自閉症児者の求める合理的配慮を丁寧にまとめておられます。ぜひ参考にしてみてください。不変の観点だと思えます。

- ◇視覚的に伝える（「聞く」よりは「見る」）
- ◇順序付け、見通しを立てて伝える
- ◇一度に多くの情報を提供しない、伝えない
- ◇本人に直接、具体的に伝える
- ◇失敗は成功の母にならない、成功体験を重視

- ◇予定の変更、変化等は事前に説明
- ◇本当に理解できたか確認、フォローが必要
- ◇本人の意思表示、ヘルプ要請の方法作り
- ◇独り言、身体をゆらす等問題なければ許容
- ◇奇異な目で見ない（理解を持った無関心）

※知的な遅れのある自閉症の人だけでなく、知的な遅れの無い自閉症の人にも同じ配慮が必要です。

自閉症児者の求める合理的配慮（神奈川県自閉症協会より）

人権フェスタ

平成 27 年 11 月 14 日（土）
和歌山ビッグホエール

今回もブース展示で参加しました。

例年通り、自閉症・発達障害の啓発ポスター（毎年同じモノなので、新しいモノにしたいなあ〜）、子どもたちの絵画作品の展示、書籍の販売、啓発パンフレットの配布、ポラリスでお借りした支援グッズの展示と発達相談会を行いました。

ブース当番をして下さった方々、ありがとうございました！！



編集スタッフ： 尾崎富久子・江川かがり・奥野美和・植野比呂美 《発行》イコラ編集局（連絡先）尾崎富久子
e-mail: fukuko2939@gmail.com

※ イコラは Web 版も出しています。ぜひカラーでもお楽しみ下さい。バックナンバーもご覧いただけます。
和歌山県自閉症協会ホームページからどうぞ！！